

百人一首を書きましよう。

ほととぎす鳴きつる方をながむれば

ただ有明の月ぞ残れる

【現代語訳】

ほととぎすが鳴いた方を眺めると、その姿は見えずにただ有明の月が残っている。

後徳大寺左大臣

思ひわびさても命はあるものを

憂きに堪へぬは涙なりけり

【現代語訳】

つれない人を思い、悩み悲しんでもやはり命は長らえているのに、つらさに耐えきれずに流れ落ちるのは涙であった。

道因法師

世の中よ道こそなけれ思ひ入る

山の奥にも鹿ぞ鳴くなる

【現代語訳】

世の中というものは逃れる道は無いものなのだ。深く思いこんで入ったこの山奥にも、鹿が悲しげに鳴いている。

皇太后宮大夫俊成

長らへばまたこのごろやしのばれむ

憂しと見し世ぞ今は恋しき

【現代語訳】

もし生き長らえたら、つらいことの多いこの頃も懐かしく思い出されるのだろうか。つかった過去も今では恋しく思い出されるのだから。

藤原清輔朝臣